

【0210_宋代の社会と文化（1）】 つぎの文中の空欄に適する語句を〔語群〕から選び、記号で答えよ。

宋代になると、小農民支配を基盤とする均田制の体制が崩れ、華北でも江南でも新たな産業の発展がよびさまされ、都市経済もまた大きく成長した。江南の稲作は南宋時代に「（1）熟すれば天下足る」といわれるように長江下流域の地が穀倉地帯となった。また、（2）の風習が東アジアに普及したことで重要な輸出品となった。従来都市内部のみで許されていた商品売買が自由になり、各地の都市人口も膨張し、百万都市開封が登場したほか、地方には（3）・市といった新興都市が生まれた。生活面では（4）の使用が普及し、都市では手工業も発展し、鉄・陶磁器・絹織物・紙などの生産が質量ともに向上し、精糖・製塩・醸造業も発展した。都市の町並みはより自由で実用的になり、深夜営業や露店もあらわれ、芝居小屋なども出現し活気があふれた。都市では商人たちは（5）、手工業者は（6）という同業組合をつくり、銅銭が大量に铸造され、さらに需要により（7）や会子という紙幣の使用がはじまり、南宋では主要通貨となった。対外交易も拡大し唐代の広州に加え杭州・（8）・明州（寧波）などにも（9）が置かれ、とくに南海貿易で（10）商人の来航も多くなり港市として発展した。日本列島・朝鮮半島との間では民間の私貿易がさかんになり、とくに平氏政権がすすめた（11）により書籍・宋銭が大量に日本に輸入され、日本の文化・経済に大きな影響を与えた。

宋代には学問・芸術面でも新機運が生まれた。加えて都市を中心に生活する庶民層の開放的な文化が開花した。儒学では万物生成の理法や人間の本性を論理的に追求する（12）がおこった。南宋の（13）がこれを大成したので（14）という。この学派は、君臣上下秩序を絶対視して大義名分と華夷秩序を唱え、この後儒学の正統として朝鮮半島・日本・ヴェトナムにも伝えられた。北宋の司馬光は歴史のうえから大義名分を説き、編年体の通史『（15）』を編纂した。これに対し、（16）（象山）は、心（主体性）の確立と実践を重視し、のちの陽明学に影響を与えた。

仏教では（17）と浄土宗が栄えたが、（17）は道教に刺激を与え、修養を重んじる（18）が華北で創始された。文学では散文の（19）・王安石・蘇東坡らの名文家が輩出し、韻文では唐代の詩に対し、叙情的な（20）が流行した。

手工業の発達を背景に美術工芸も発展し、絵画では宮廷画院中心の北宗画とよばれる（21）画と、文人や禅僧の間で描かれた水墨画の文人画が全盛となった。工芸では漆器や織物のほか、青磁や白磁に代表される高度な陶磁器が（22）などでつくられた。科学技術では、（23）の技術が発展して大量の書物が出版され、また（24）と、磁針が実用化された（25）がムスリム商人を介して西方に伝えられた。

〔語群〕 ア 朱熹 イ 朱子学 ウ 交子 エ 禅宗 オ 喫茶
カ 欧陽脩 キ 火薬 ク ムスリム ケ 陸九淵 コ 江浙
サ 泉州 シ 景德鎮 ス 日宋貿易 セ 羅針盤 ソ 資治通鑑
タ 宋学 チ 木版印刷 ツ 全真教 テ 鎮 ト 行

ナ 院体 ニ 詞 ヌ 作 ネ 市舶司 ノ 石炭

----- [解答] -----

1 - コ 2 - オ 3 - テ 4 - ノ 5 - ト 6 - ヌ 7 - ウ 8 - サ 9 - ネ 10 - ク
11 - ス 12 - タ 13 - ア 14 - イ 15 - ソ 16 - ケ 17 - エ 18 - ツ 19 - カ 20 - ニ
21 - ナ 22 - シ 23 - チ 24 - キ 25 - セ